

働き方ネット大阪 第10回つどい『資本論』講演会のご案内

社会変革の波を起こそう

—『時代はまるで資本論』

世界同時不況（2008年世界恐慌）の発生から1年余りが経過したものの、「派遣切り」や「パート切り」などの非正規労働者の解雇・雇止めは全く癒えず、正社員切りが広がっています。景気が底を打ったというのは名ばかりで、失業率は過去最悪を記録し、有効求人倍率の低下にも全く歯止めがかかっていません。また、生活保護受給者も増加の一途をたどり、私たちを取り巻く労働・生活環境は、むしろ悪化する一方です。

そのような中で新しく誕生した民主党政権の雇用・労働・福祉政策は、日本に蔓延する貧困や格差を解消する大きな一歩となるのかどうか注目されています。しかし、私たちが傍観しているだけでは現状を打開することはできません。いま重要なことは、私たちが声を上げて行動しなければ、働く者の権利を勝ち取り、社会を大きく変革することはできないということです。

三大経済学者の一人とされているカール・マルクスは、長い歳月をかけて『資本論』（第1巻初版、1867年）を著し、労働者を貧困に陥れる資本主義経済の仕組みを批判的に明らかにしました。そこに描かれているのは、資本家に搾取され、ほとんど無権利で無保護な労働環境で悲惨な状態に置かれた労働者たちです。それは今日の日本で非正規労働者が置かれている労働・生活状態に通じるものがあります。その意味でも、マルクスの『資本論』は、私たちが資本主義社会の仕組みを学び、社会を変えていく筋道を考えるうえで、いまなお有益な最良の古典といっても過言ではありません。

今回、労働者、市民と弁護士、学者の有志で運営されている働き方ネット大阪と、基礎経済科学研究所との共催で、「働き方ネット大阪第10回つどい」として、『資本論』講演会を開催することになりました。「時代はまるで『資本論』」のいま、『資本論』から何を学び、何を現代に生かすかを参加者全員で考えていきたいと思えます。

師走のご多忙な時節ではありますが、多数の方々のご参加をお待ちしています。

日 時：2009年12月3日（木）午後6時半～8時半

場 所：エルおおさか709号室

参加費：500円（会場費+資料代）

主 催：基礎経済科学研究所・働き方ネット大阪

講演1：森岡 孝二（関西大学教授）

「働きすぎと貧困をどう克服するか」

講演2：野口 宏（関西大学名誉教授）

「『資本論』と情報通信技術革命」

講演3：大西 広（京都大学大学院教授）

「『資本論』と人間発達」

